

## 事業再構築・業態転換の検討の進め方（方向性と取り組む内容の実現性評価）

事業再構築や業態転換において、方向性と取り組む内容がある程度決まったら、  
下記の「12の質問」に○△×で回答してみましょう。

もし、「△」「×」が合わせて複数ある、または「○」よりも多いという場合には、  
もう一度、現状認識をやり直し、ご自身のイメージや事業案を再考することを  
オススメします。再考の際には、信頼できる経営者仲間や、顧問税理士や  
経営コンサルタント等の専門家を活用したり、

地元の支援機関や経営者団体の経営相談制度を利用したりすることも効果的です。

事業案の実現可能性評価のための12の質問 ○=はい △=どちらとも言えない ×=いいえ

事業案の実現可能性の評価にあたっての質問		○	△	×
Q1	その方向性や事業案はプロダクト・ライフサイクルによる分析やPEST分析の結果、今後の市場成長やプラス要因が予測できる内容ですか？			
Q2	その方向性や事業案はプロダクト・ライフサイクルによる分析やPEST分析の結果、既に衰退期を迎えている、もしくはマイナス要因が多い予測の傾向ではないですか？			
Q3	自社の貸借対照表を分析の結果、その方向性や事業案に取り組むための一定の投資資金を自己資金、もしくは金融機関等からの借入で賄えると確認できましたか？			
Q4	自社の損益計算書を分析の結果、その方向性や事業案に取り組みながらも、既存の事業や商品サービスでの収益は一定維持できると確認できましたか？			
Q5	その方向性や事業案で想定する投資資金は既存の事業の収益を中心に、一定の期間内に回収もしくは返済できる見込みがありますか？			
Q6	その方向性や事業案は既存の商品サービスやノウハウ、顧客や人脈ネットワーク等を活かして取り組めそうな内容ですか？			
Q7	その方向性や事業案は既存の事業や商品サービスの「価格帯」「顧客層」とのミスマッチはないですか？			
Q8	その方向性や事業案は既存の事業にて直接的なノウハウがない新市場への一足飛びにはなっていないですか？			
Q9	その方向性や事業案は既存の事業の形態やスタイルと大きくかけ離れた乖離はないですか？（例：既存事業は設備中心でヒトが少数なのに検討した事業案はヒトを多数使う等）			
Q10	その方向性や事業案は現在の会社の方針やビジョンと整合性を持っていますか？			
Q11	その方向性や事業案は現状で法規制や許認可取得が必須条件等の制約が伴わない実施可能なものですか？今後、法規制の強化や許認可取得が必須条件となるような予測はないものですか？			
Q12	その方向性や事業案はあなたが心から挑戦したいと思える内容ですか？			